

長期貯蔵後でもキレイに揚がるポテトチップス用馬鈴しょ新品种「北育15号」を開発しました



## 背景

- ポテトチップス原料として、チップカラーが悪化しやすい春以降の製造に適する品種が求められています。
- 現行品種「スノーデン」は、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持たず、熟期も遅くなっています。

## 成果

~~馬鈴しょの大害虫~~

1 チップがきれいで長期間の貯蔵に適する



北育15号

スノーデン

北見農試での小規模テスト (6月)

- チップカラーが優れます。(焦げが目立たず明るい色)
- 長期貯蔵後のチップカラーは「スノーデン」に優ります。

2 カルビー・北海道フーズの製造ラインテストでも加工が楽で高品質



貯蔵後の芽が短い

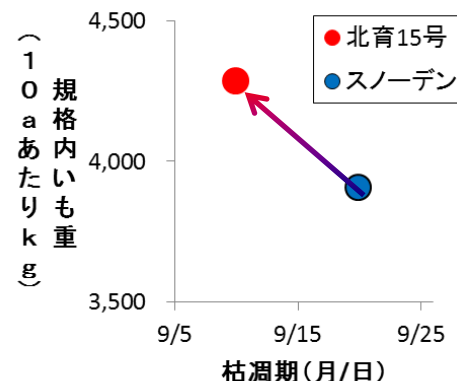


チップカラーの良さが実証された

- ブランチング工程を省略でき、原料不良が少ないことから、加工が楽で効率が良い。
- 5~7月のテストで現行品種と同等以上の高評価。

※ブランチング (湯通し) :  
チップの焦げの原因となる糖分を洗い流す作業工程

3 たくさんとれて、害虫に強い



- 枯凋期が「スノーデン」より早く、収穫をはやく行うことができます。
- ジャガイモシストセンチュウに対して抵抗性を持ち、生産者が栽培しやすい。

※枯凋期:  
馬鈴しょの茎や葉が枯れる時期

## 期待される効果

- 高品質な国産ポテトチップス原料の安定供給が可能となり、メーカーと生産者の双方に利益となります。
- ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及により、北海道産馬鈴しょの安定生産に大きく貢献。